

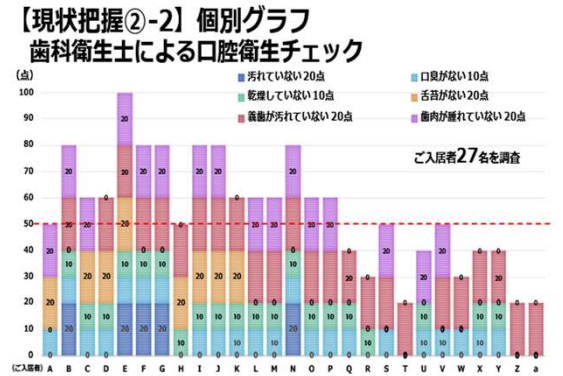
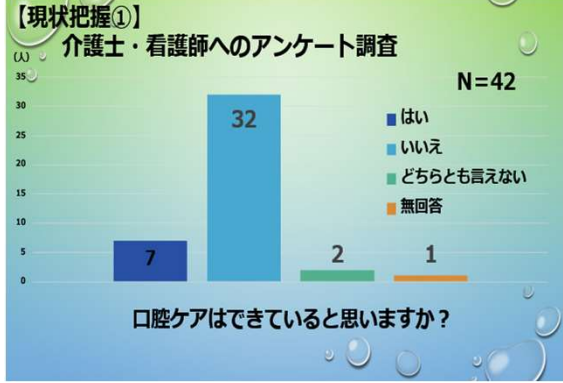
演題名	口腔ケアにおける職員の技術向上		
施設名	ライフケアガーデン湘南	(ふりがな) 発表者(職種)	やまもと ひでお 山本 秀夫 (介護福祉士)
(ふりがな) チーム名	こうくわかんきょう ととのえたい 口腔環境整え隊		
分類	①診断・治療・ケアの質の向上をめざすもの		
取り組種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	日々の業務に追われ口腔ケアに十分な時間を掛けることが出来ず、歯科往診時に歯の汚れ等を指摘されることが問題としてあった。		
改善の指標と その目標値	(指 標) 口腔衛生評価点数50点以下の対象者13名の点数 (目標値) 11月までに全員100点にする。		
実施した対策	①歯科衛生士による勉強会の開催 ②口腔ケアマニュアルの作成・各フロア配布。理解を深めるべく説明会の開催 ③口腔ケアを行う時間確保の為、見守りを他部署に依頼し協力体制を確立 ④歯科衛生士指導の下、個別に口腔ケア方法を記した手順書の作成し各居室に掲示 ⑤歯科衛生士指導の下に必要な物品を揃え、各居室に使用方法の掲示		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 口腔衛生評価点数50点以下の対象者13名 (実施後) 対象者13名、口腔衛生評価点数を全員100点となり目標達成となる。		
歯止めと 標準化	①入居時に情報を収集し個別ケア表を作成し各居室に設置 ②歯科訪問治療の実施記録をファイルにまとめ現状把握する ③3か月ごとに歯科往診時に口腔衛生チェックを行う ④年一回(6月)にマニュアルの見直しと更新を行う ⑤年一回(6月)に歯科衛生士による口腔手技の勉強会を開催する		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ②複数の職場が連携した活動	チーム メンバー (職種)	1 大森 圭太 介護福祉士
活動の場 ※複数選択可	①診療部門		2 山本 秀夫 介護福祉士
活動期間	令和3年4月 ~ 11月		3 佐藤 優子 看護師
リーダー名 (職種)	大森 圭太(介護福祉士)		4 田村 絵里 事務
活動回数	16 回		

【テーマ選定】

【テーマ選定・背景】 ●:5点○:3点△:1点 作成: R3.5.15 佐藤 健

評価項目	重要度	緊急度	実現性	施設方針	総合得点
口腔ケア	○	○	○	○	20
入浴	○	○	△	○	18
整容 (髷剃り・爪切り・眉毛)	○	△	○	○	18
睡眠	○	△	△	○	16

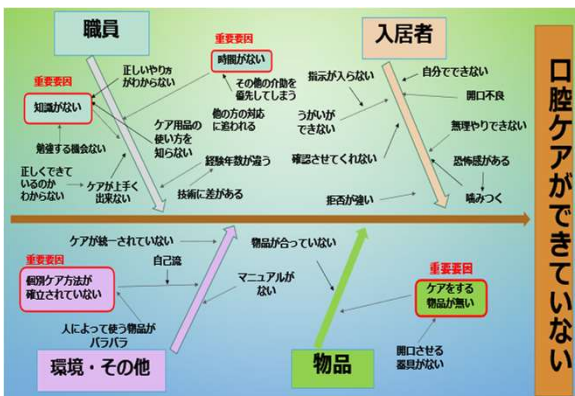
【現状把握】



【目標設定】



【要因解析】



【重要要因の検証】 作成: R3・5・1 佐藤 健

重要要因	検証方法	検証結果	採否
① ケア時間がない	①食事の際の人員配置 ②口腔ケア以外の業務の抽出 ③ナースコールの頻度 上記実態の把握	①介護スタッフ各フロア1~2名 ②配膳や下駄、記録、食事介助以外にも朝はアシスタントスタッフ不在のみ、その業務も担当。夕食は排泄介助や更衣等のインキングケアも揃えて同時に行う。 ③ナースコール（各種センター含む）の頻度は昼間に最も多く集中する傾向があり、その対応に迷われる。	○
② 個別ケア方法が確立されていない	手順書の確認	口腔ケア方法のマニュアルがない	○
③ 口腔ケアに必要な知識がない	アンケート調査 看護師・介護士 (42名対象)	基本を学びたいと24名が回答	○
④ ケア用品が揃っていない	必要物品の確認	個々に合った物や開口困難の物品が無い	○

【対策の立案と実施】

【対策の立案と実施】

重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	効果	予算	時間	担当
① ケア時間がない	口腔ケアの必要性を説明	口腔ケアを意識してもらおう	見守りを他部署に依頼	○	○	○	○
② 個別ケア方法が確立されていない	居室内の洗面台に手順書を貼付	口腔ケアチェック表の作成	歯科医によるチェック表の確認	○	○	○	○
③ 口腔ケアに必要な知識がない	歯科衛生士による勉強会の開催	口腔ケアマニュアルの作成	マニュアル説明会を開催	○	○	○	○
④ ケア用品が揃っていない	歯科医に相談し個別に必要な物品を揃える	物品の使用方法を居室内に貼付	物品が不足しないよう定期的に確認と購入	○	△	○	○

【対策の実施①】

歯科衛生士による勉強会の開催



対策の実施②

口腔ケアに必要な知識がない

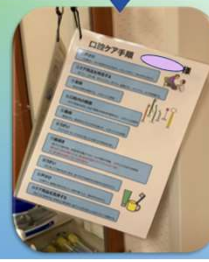


ケア時間がない時間が取れない



対策の実施③

個別ケア方法が確立されていない



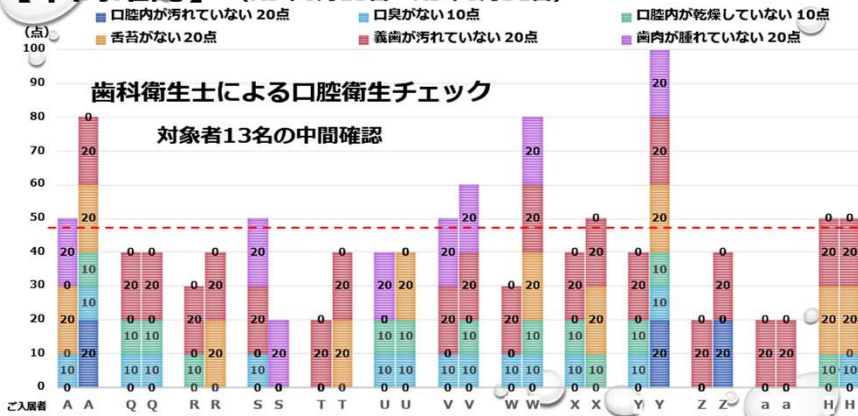
ケア用品が揃っていない



【中間確認】

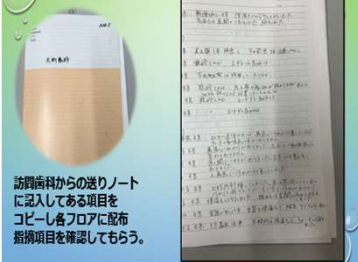
【中間確認】

(R3年6月15日～R3年8月31日)



【追加対策】

【追加対策①】



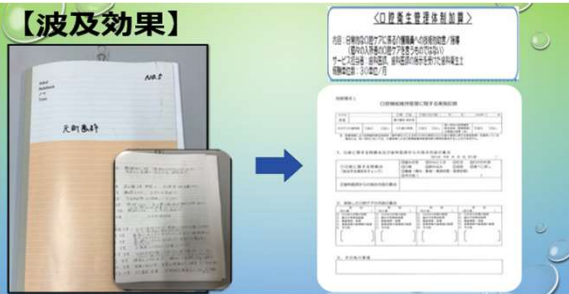
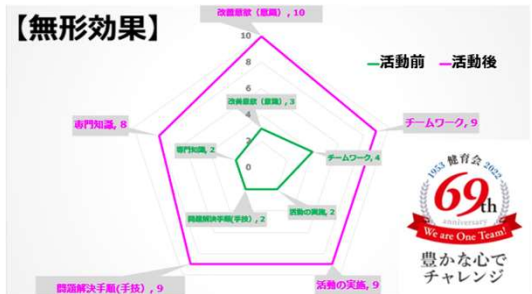
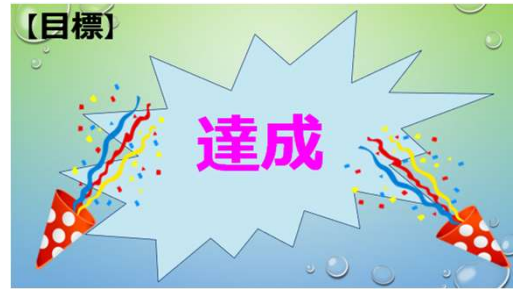
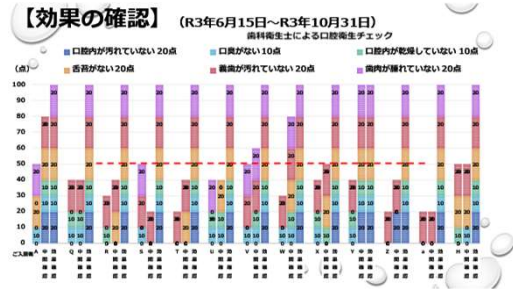
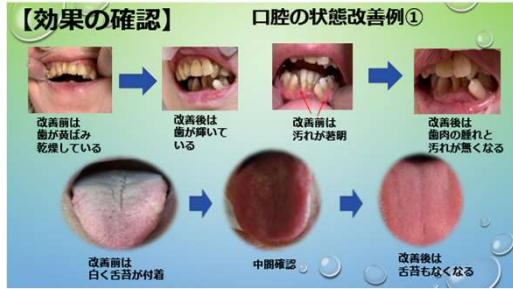
【追加対策②】



【追加対策③】



【効果の確認】



【標準化と管理の定着】

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	個別口腔ケア方法を	全職員が知るために	入居担当者が	入居時に情報を収集し	各フロアで	口腔ケア表を作成し居室に設置
	歯科訪問診療の	現状を知るために	看護師が	訪問診療のあった日に	ナースステーションで	ケア実施記録をファイルにまとめる
	口腔内衛生チェックを	ケアをする職員がわかるように	介護主任が	3ヶ月ごとに	歯科往診時に	実施する
管理	口腔ケアマニュアルを	活用できるように	介護主任が	介護ミーティング開催時に	開催場所で	年1回(6月)見直しと更新をする
教育	口腔ケアの手技を	忘れない為に	看護師が	マニュアル更新時に合わせて	施設内で	歯科衛生士による勉強会の開催を設定する

【反省と今後の進め方】

ステップ	良かった点	悪かった点	今後の進め方
1. テーマ選定	本来あるべきサービス提供を考える事ができた。	テーマを個別ケアに絞り過ぎた。	テーマの幅をもっと広げ 選定を行う。
2. 現状把握 目標設定	口腔ケアの基本的な手技を学ぶ事ができた。	訪問歯科のデータ収集に時間を要したため現状把握が遅れた。	入居時に口腔内アセスメントを行い個別口腔ケア表を作成し居室内に設置する。
3. 要因の解析	疑問としていた事を解析し、原因について話し合うことで、多くの発見や見落としがある事が分かった。	要因を解析するためにアンケートを実施したが、事実と異なる回答があったりし困惑した。	定期的な解析をする。なぜ?なぜ?を繰り返すトレーニングを行う。
4. 対策・立案・実施	TQMメンバーが意欲的に取り組む事で実行・実施に繋がる事ができた。	認知度や関心度の方に対するアプローチ方法の立案が行えなかった。	今後も対策を継続的に検討・実施
5. 効果の確認	中間確認では目標には到達する事が出来なかったが、再度対策の見直しを繰り返して全体的に口腔ケアの意識を上げる事ができた。	中間確認の時点で目標に到達できなかった。	職員の意識が変わったので今後も継続。定期的に歯科衛生士の口腔衛生チェックを行い知識と意識を確認する。
6. 標準化と管理の定着	マニュアルが作成でき、勉強会を開催する事ができた。職員は口腔ケアに対する意識の変化が見られた。	勉強会に全員が参加できなかった。	訪問歯科(月1回)を巻き込み、定期的に見直しをしPDCAを廻す。ご入居者に満足度を確認する。